

HSC017-P02

会場:コンベンションホール

時間: 5月24日17:15-18:45

## 日本の農村におけるツーリズムの展開

### The development of rural tourism in Japan

呉羽 正昭<sup>1\*</sup>

Masaaki Kureha<sup>1\*</sup>

<sup>1</sup>筑波大学大学院生命環境科学研究科

<sup>1</sup>Univ. of Tsukuba

日本の農村におけるツーリズムは、1990年代初頭以降、「グリーンツーリズム」の導入とともに大きく発展してきた。農村のツーリズムに関する研究の多くは、近年の動向を分析したものである。しかし、農村を目的地としたツーリズムは1980年代以前からも存在していた。さらに、農村におけるツーリズムがどのように展開してきたのかについては未解明の点が多い。そこで本研究では、日本の農村におけるツーリズムの展開にみられる諸特徴を明らかにする。とくに、明治期以降の農村ツーリズムの時間的展開およびその地域的展開に注目する。本研究では農村ツーリズムを、農村空間に存在するツーリズムと広くとらえる。

1960年代までの日本の農村ツーリズムは、観光農園、民宿、観光牧場などの施設を中心に展開していた。いずれも農村空間自体を訪問するために利用されていたわけではなく、当時主流であった周遊観光の立ち寄り地としての性格が強かった。つまり、訪問者は農村空間に存在する代替的な観光資源を消費していたにすぎなかった。しかし、1970年代以降になると純粋な都市住民の増加などを背景として、国民の田園景観や農村文化への興味が徐々に増大し、ルーラリティ消費を目的とした訪問者が増加しつつある。その受け入れ基盤として、都市周辺では市民農園や産地直売施設の整備、農家民宿の活用がなされ、また農村独自の景観維持のため観光者による試みも出現している。つまり、今日の農村空間には異なる農村ツーリズムが混在している。したがって、農村ツーリズムを活かして地域の持続的発展を目指す場合には、こうした共存形態を考慮する必要がある。

キーワード:農村ツーリズム,農村空間,ルーラリティ,消費,日本

Keywords: rural tourism, rural space, rurality, consumption, Japan